



第13回自立支援セミナー2017

社会福祉法人改革

平成29年11月29日（日）に千葉県知的障害者福祉協会が例年主催する、第13回自立支援セミナー2017「社会福祉法人改革」が、千葉市文化センターで、参加者540名という満場の中、開催となり、千葉県健康福祉部障害福祉課課長の古屋勝史氏にもご列席いただきました。

開催にあたり、千葉県知的障害者福祉協会会長の里見吉英氏から挨拶があり、冒頭、昨年7月に「津久井やまゆり園」で発生した、殺傷事件の被害者への哀悼の意と、お見舞いの言葉が述べられました。続けて、この事件は、障害者の人権を著しく否定した犯人による、ごく希なケースとしながらも、昨年9月に計画された、施設の全面建て替え計画について、このようない凄惨な事件があつた同じ場所であることには疑問を投げかけました。

また、現在の人材確保の現況について、知的障害福祉職員の給与所得が、他業種と比較して低く、重労働のイメージがある点が問題となつており、昨年、政策委員会が作成したパンフレットの活用と、初めて実施した、協会主催の就職説明会の継続実施も含め、知的に障害を有す

る方々と、この方たちを支える職業の魅力を広く伝え、若い世代にも、次の担い手となつてもらえるよう、努めていきたいとの考えが述べられました。

さらに、来年の医療、介護、障害福祉の三つの報酬改定を控え、今年は重要な一年となることから、危機感をもち、知的障害をもつ方々とその家族、そして職員の生活を、報酬の面でも守つていけるように、尽力したいとの思いを語られました。

最後に、今年の7月には、千葉県知的障害者福祉協会が主体となり、関東地区知的障害関係施設職員研修会が、千葉県で開催されることから、県内施設が一丸となり、他地区関係者の、おもてなししができるよう準備を進めるとの話で締められました。

最後に、今年の7月には、千葉県知的障害者福祉協会が主体となり、関東地区知的障害関係施設職員研修会が、千葉県で開催されることから、県内施設が一丸となり、他地区関係者の、おもてなししができるよう準備を進めるとの話で締められました。

第65号（一〇一七年三月号）  
発行日 平成二十九（一〇一七）年三月二十日  
発行者 里見吉英  
編集者 釜山正昭・菅谷大輔・大橋宣彦  
千葉県知的障害者福祉協会  
(本部) 千葉市中央区中央一四一十 友美ビル二十三B  
TEL 043-511-5721  
HP <http://www.chibachiteki.com/>  
(事務局) 船橋市金堀町四九九一 大久保学園内  
TEL 047-457-2461

2

- 第13回自立支援セミナー2017 [1] [3]
  - 平成28年度施設長研修会 [4] [5]
  - 支援スタッフ部会コーナー [6] [5]
  - 新事業所紹介 [6] [5]
  - 第15回施設職員交流「ルフ大会」 [6] [5]
  - 第44回手をつなぐ作品展 [6] [5]
  - 平成29年度行事予定 [6] [5]
  - わが施設の自慢・アピールポイント⑬ [6] [5]
  - 千葉知協トビックス [6] [5]
  - 事務局だより・編集後記 [8] [8]

## 講演1

## 社会福祉法人改革が目指すもの

社会福祉法人 生活クラブ 生活クラブ風の村

理事長 池田 徹氏



社会福祉法人生活クラブは、生活協同組合の生活クラブ千葉が母体で、約1,600名の職員を有する、県内でも有数の大きな法人です。まず、この度の社会福祉法人改革の実施について、そもそもが、報道等による社会福祉法人の内部留保が取り上げられたことに端を発し、全国の社会福祉法人の平均的な留保額が3億円程度あることも問題視されました。しかしながら、国からの補助金がほとんど無い現状において、特別養護老人ホームの新設に、10億円の予算を要するのに対し、その額は、ほんの一部しかないとの説明がありました。それでも、社会福祉法人は、他の各種法人との比較で、かなりの優遇を受けていた現状があり、昨今の社会

福祉事業への経営主体の比率における、社会福祉法人の低下をみて、この改正が潮流となるとの理解もできるとの話がありました。

今回の社会福祉法等の一部を改正する法律の概要説明では、5つの要点を挙げられました。  
①「経営組織のガバナンスの強化における、経営組織の在り方」では、最も大きな変更となつた評議員会については、「必置の議決機関」となり、その権限が大きくなりました。池田氏は、この点に関し、生活クラブの評議員は、地域の方を中心に、法人運営と事業の方向性の意見や同意を得る身近な存在として、貢献して頂いていたが、この改正により、法人運営で大きな責任を伴うことから、その扱い手と、なり得なくなったことが残念であると述べられました。  
②「事業運営の透明性の向上」は、これまで社会福祉法人が、積極的にその情報を公表してこなされた点の反省がなされ、今後は、国が取り決めた、閲覧対象書類と、請求者の国民一般への拡大がされるとの説明がありました。  
③「財務規律の強化」では、資産から負債や基本金を控除した活用可能な資産から、事業継続に必要な財産として、事業用不動産等と将来の建て替え費用等、そして年間支出3か月程度の運転資金を差し引いて、生じた金額を用いた、社会福祉充実計画の策定が義務づけられることとなりました。  
④「地域における公益的な取り組みを実施する責務」は、他の主体では困難な福祉ニーズへの対応として、日常生活または社会生活上の中でのUR賃貸住宅の団地再生事業の公募で、生活クラブが事業者として採択され、2011年8月にオープンした「生活クラブ稻毛ビレッジ虹と風」は、全国的にも注目されている埼玉県和光市での、市民の理解と協力を得て、低い介護認定率を達成し、さらには、要介護認定を受けからリハビリをとおして、介護保険卒業する「和光方式」とも呼ばれる内容を参考に、自立支援型ケアマネジメント確立に向けたモデル事業として進め、将来的には千葉市全域に拡げていきたいとの抱負が語られました。

今後、さらに社会福祉法人が、地域における公益的な取組を担っていくにあたり、近年の社会経済情勢の変化といった視点から、説明があ

## 講演2

## 障害者の親として生きる

タレント・工業デザイナー・怪談家

稲川 淳二 氏



稲川氏は、タレントとしてワーラエティーなど多くのメディアに出演され、自らエディショナーとしてワードローブを担当するなど、マルチな才能をお持ちの方です。今回は、

一方で、怪談家としては、三重県の筋ジストロファイー症の方を対象とした、施設利用者からのファンレターを読んだ時、何とか公演を実現したいとの思いが募り、その思いに共感してくれたスタッフや照明技師の協力を受けることができたとの話がありました。公演当日は、エアコンもない粗末な木造平屋建ての施設で、まさに、死を待つのみといった環境でしたが、利用者の方々は、不自由な手で歓迎の装飾をしてくださいとの話がありました。稲川氏は、切り絵の完成度の高さに驚き、作者である利用者が持っていたほうが良いのではないかと訴えます。が、施設の職員からは、「彼が一生懸命に稲川氏を思って作成した物であるから、稲川氏にもらつて欲しい」と言われ、それまでは、自身の中に「行つてあげよう、話してあげよう」との考えがあつたことに気がつき、心が震えたとの話がありました。これ以後も、この利用者からは、手紙が送られてきましたが、ある日の「静岡に帰ります」といった内容の手紙を最後に、二度と手紙が届くことはなかつたとの話でした。

そして、自身の息子さんの話では、これまで、夫婦と長男の3人家族で、売れっ子のタレントとして、忙しい中にも幸せな日々を送っていたところ、次男誕生の連絡を受け、病院に駆けつけれるも、奥さんの表情は冴えず、「目の位置が異なる」と不安を口にする状況であつたとのことです。その後、10人以上の医師の診断を受け、異常は無いとの見解の中、最後の医師

障害者の親の立場で講演して頂きました。最初に稲川氏は、障害者の親として、悲惨な状況のみを取り上げることに対し不本意であるとの考えを述べられました。そして、ご自身の体験で感じたエピソードから、昨今の日本人の他者を思いやる心の荒廃を嘆く場面もありました。

一方で、怪談家としては、三重県の筋ジストロファイー症の方を対象とした、施設利用者からのファンレターを読んだ時、何とか公演を実現したいとの思いが募り、その思いに共感してくれたスタッフや照明技師の協力を受けることができたとの話がありました。公演当日は、エアコンもない粗末な木造平屋建ての施設で、まさに、死を待つのみといった環境でしたが、利用者の方々は、不自由な手で歓迎の装飾をしてくださいとの話がありました。稲川氏は、切り絵の完成度の高さに驚き、作者である利用者が持っていたほうが良いのではないかと訴えます。が、施設の職員からは、「彼が一生懸命に稲川氏を思って作成した物であるから、稲川氏にもらつて欲しい」と言われ、それまでは、自身の中に「行つてあげよう、話してあげよう」との考えがあつたことに気がつき、心が震えたとの話がありました。これ以後も、この利用者からは、手紙が送られてきましたが、ある日の「静岡に帰ります」といった内容の手紙を最後に、二度と手紙が届くことはなかつたとの話でした。

結局のところ、由輝君は数年前に亡くなられましたが、稲川氏には、生前、懸命に走り、飛び回る由輝君の姿が目に浮かぶと同時に、「この世に不要な命はない」との強い思いを語られ、講演を終えました。

今回のセミナーでは、目まぐるしく変わる制度や環境の中でも、私たちの本分は、目の前の人的人生と向き合うことであると改めて感じ、その責任を全うするために、日々努めていく決意を固めるものとなりました。

## 千葉県知的障害者福祉協会 平成28年度施設長研修会

於・鴨川グランドホテル

1日目



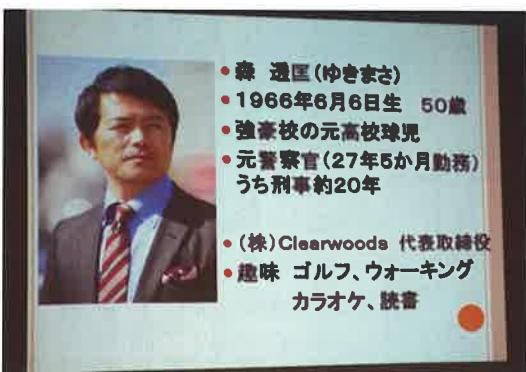
千葉県健康福祉部障害福祉課長 古屋勝史氏

平成28年12月13日(火)～14日(水)の日程で、鴨川グランドホテルを会場に  
平成28年度施設長研修会が開催されました。

対応のための留意事項)を演題として、公益財団法人 日本知的障害者福祉協会事務局長の末吉孝徳氏より、平成29年4月に向けてどのような準備を進めていけば良いのかをご説明をいただきました。今回の制度改正による主な見直しは、社会福祉法人の透明性の向上や経営組織のガバナンスの強化、また、社会福祉法人の内部留保の批判に対する対応であり、平成28年11月11日に発出された関係通知を各自熟読する必要があるとのことでした。その他、定款変更の際の留意点や社会福祉充実計画における余裕財産を確定させるための算定式イメージ、社会福祉法人に対する指導監査の見直し等についてもご説明をいただきました。

2日目は「ビジネスや日常生活でのウソ(人間心理)の見抜き方」を演題として株式会社クリアウッド 代表取締役の森透匡氏の講演から始まりました。森氏からは元刑事として約20年間の中で体感した豊富な事例を紹介してもらいながら、ウソや人間心理を見抜く様々なテクニックを学ぶことができました。

2日目



1日目は「障害福祉の情勢について」と題し、千葉県知的障害者福祉協会会长の里見吉英氏により、人材難が続く福祉業界の中につけて、どのように仕事の魅力をアピールして人材を確保していくかが今後の重点課題であり、今後も協会として取り組んでいく旨、また、津久井やまゆり園で起きた事件にも触れ、このような特異なケースを一般化するような議論に左右されることはなく、我々が培ってきた歴史の中で、障害者に対する支援や地域との関わり等、これまでと変わらぬ進めることが大切であり、福祉は今後も落ち着かない状況が予想されるが、障害者の言葉を結ばれました。次に、「社会福祉法人制度改革について」(社会福祉法人制度改組)が示されました。

統いて、千葉県健康福祉部障害福祉課長の古屋勝史氏による行政説明では、平成28年度千葉県障害者施策の展開として、①第5次千葉県障害者計画の進捗状況及び第6次千葉県障害者計画の策定スケジュール②入所施設から地域生活への移行の推進③精神障害のある人への地域生活への移行の推進④権利擁護の推進⑤療育支援体制の充実⑥相談支援体制の充実⑦一般就労の促進と福祉的就労の充実⑧障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実等についてご報告とともに、平成29年度重点事業として、強度行動情報収集の雰囲気作りを徹底すること、質問の方法や内容で上手に情報を引き出すことが重要でした。そのためには事前準備を怠らないこと、情報収集の雰囲気作りを徹底すること、質問の方法や内容で上手に情報を引き出すことが重要であると話されました。昨今の福祉業界における採用は厳しい状況が続いているが、まずは、面接官が人を見抜くスキルを高め、採つてはいけない人を見抜き、採らない勇気をもつことを心掛けながら、魅力的な面接官の3要素である、笑顔、聞き、前のめりを意識して今後の採用面接に取り組んで行かなければならぬと感じました。

2日間に渡る研修の最後を締めたのは、大衆演劇界のプリンスと称され、劇場公演等でござる躍されている門戸竜二氏をお迎えし、女形、化粧粧を変え、立ち役の披露をしていただいた後、「わが人生と養護施設での暮らし」と題した講演をお聞きしました。門戸氏は高校を卒業するまでに児童養護施設で過ごした経験が必要になつた子供たちを支援する「あおぞら基金」へ芸能活動で得た収入の一部を寄付、から、さまざまな家庭の事情で援護、育成の手帳がこれまでの6年以上を東葛南ブロックでは毎年、職員交流フットサル大会を開催しています。今年度はより多くの参加者を募るために、近隣の東葛北ブロックにも声をかけ、合わせて5事業所の参加となり、1月の寒さ厳しい中でも熱い戦いが繰り広げられました。参加者は20代～50代で、男性がメインとなりましたが、女性も一緒に楽しんでもらうために、必ず1名は女性が試合に参加し、女性が得点を決めた場合は倍の2点という特別ルールを作りました。試合形式は1試合10分、5事業所総当たりのリーグ戦で行い、最後にリーグ戦の上位2チームで決勝戦を行いました。

優勝した施設は、サッカー経験者の多い男性の見事なパスワークから、ゴール近くで女性にボールを繋いで高得点を狙う作戦が見事にはまり、2対1で優勝となりました。他の試合でも女性の2倍得点を狙うチームは多く、女性のゴールが勝敗を分ける試合が多くありました。試合中は、真剣勝負の場面もあれば、味方がシュートを外したり、空振りした時など、笑いに包まれるといった場面も見られました。参加人数

社会福祉法人 心聖会 小池更生園  
施設長 吉村優児



## 支援スタッフ部会コーナー

### 東葛南ブロック

#### ●●職員フットサル大会●●

東葛南ブロック長 関口 淳

東葛南ブロックでは毎年、職員交流フットサル大会を開催しています。今年度はより多くの参加者を募るために、近隣の東葛北ブロックにも声をかけ、合わせて5事業所の参加となり、1月の寒さ厳しい中でも熱い戦いが繰り広げられました。参加者は20代～50代で、男性がメインとなりましたが、女性も一緒に楽しんでもらうために、必ず1名は女性が試合に参加し、女性が得点を決めた場合は倍の2点という特別ルールを作りました。試合形式は1試合10分、5事業所総当たりのリーグ戦で行い、最後にリーグ戦の上位2チームで決勝戦を行いました。

優勝した施設は、サッカー経験者の多い男性の見事なパスワークから、ゴール近くで女性にボールを繋いで高得点を狙う作戦が見事にはまり、2対1で優勝となりました。他の試合でも女性の2倍得点を狙うチームは多く、女性のゴールが勝敗を分ける試合が多くありました。試合中は、真剣勝負の場面もあれば、味方がシュートを外したり、空振りした時など、笑いに包まれるといった場面も見られました。参加人数



の少ない事業所にとって、5事業所総当たり戦はかなりハードな試合数となつたため、人数が多い事業所から助っ人に入ることもあり、和やかな雰囲気で交流試合を行うことができました。

今回は初めて東葛南と北の合同開催となりましたが、参加した皆様からは他ブロックでもまた参加したいという声や、次年度に向けて走り込みやチーム練習をもっとしてから参加したいといった意気込みも聞こえてきました。来年度以降も東葛南ブロックでは職員交流フットサル大会を開催いたしますので、より多くの事業所の参加をお待ちしております。また、今回参加していただいた事業所の皆様のご協力でこのフットサル大会が開催できたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



児童発達支援センターさざんかキッズ

副施設長 奥山裕美

船橋市は人口63万人を超え、29年度は年少児の入園ができない状態となりました。園内の療育の充実はもちろんですが、今後の船橋市の療育をどう構築していくのかは、市と共に考えていかなければなりません。障がいを持つお子さんは、市と共に考えていかなくてはならない大きな課題です。障がいを持つお子さんが船橋という地域で、その人らしく生き生きと暮らしていく事も私達職員の大切な努力と考えています。

平成27年7月に船橋市行田に市内二つ目の児童発達支援センターとして「さざんかキッズ」がオープンしました。就学前の知的に遅れやつまづきのあるお子さん70名と肢体不自由のお子さん10名をお預かりして日々療育を行っています。園では「一人でできる事を増やす」「丈夫な体を作る」「社会性を身につける」を目標の3本柱として日々療育を行っています。お子さん達が見通しを持って安心して過ごせる場所となる為、楽しい遊びをたくさん提供し、子ども達の笑顔を育み、「また明日もさざんかキッズに行きたい」と思ってくれるよう職員一同毎日頑張っているところです。

## 第44回 手をつなぐ作品展

第44回手をつなぐ作品展が、北部地区ではイオンモール八千代緑が丘店にて3月4日、5日と開催されました。幹事施設は大久保学園、売上

り上げは126万円でした。南部地区ではイオンモール富津店にて2月23日から26日まで開催されました。幹事施設はふる里学舎、売り上げは128万円でした。初日から多くのお客様に来場して頂いたことで、開催目的である知的障害者への理解と関心を持つていただきました。

各施設・事業所・関係者の協力に紙面を借りて御礼申し上げます。

千葉県知的障害者福祉協会手をつなぐ作品展

新井弘輝

北部地区事務局 大久保学園  
南部地区事務局 ふる里学舎  
伊東伸之輔

## 児童発達支援センターの役割として

# さざんかキッズ

平成27年7月に船橋市行田に市内二つ目の児童発達支援センターとして「さざんかキッズ」がオープンしました。就学前の知的に遅れやつまづきのあるお子さん70名と肢体不自由のお子さん10名をお預かりして日々療育を行っています。園では「一人でできる事を増やす」「丈夫な体を作る」「社会性を身につける」を目標の3本柱として日々療育を行っています。お子さん達が見通しを持って安心して過ごせる場所となる為、楽しい遊びをたくさん提供し、子ども達の笑顔を育み、「また明日もさざんかキッズに行きたい」と思ってくれるよう職員一同毎日頑張っているところです。

## 新事業所紹介

# 第15回施設職員交流ゴルフ大会

前回、台風の影響で中止となつた第15回施設職員交流ゴルフ大会が12月7日小見川東急ゴルフクラブにて64名の参加で開催されました。今年度は天候に恵まれない事が多かつたので、当日を迎えるまでは天候が心配でなりませんでした。当日は時期的に寒空の下ではありましたが、何とか無事に開催できてホッとしました。今回は開催時間が年末にも関わらず沢山の御参加ありがとうございました。次回開催にも数多くの御参加をお待ちしております。

優勝	ビーアンビシヤス	加瀬 千史
準優勝	佑啓会	山口 喜男
3位	ビーアンビシヤス	中村 千秋
ベスグロ	ビーアンビシヤス	中村 千秋
	菜の花会	岩立きよ子

## 平成29年度 行事予定

千葉県知的障害者福祉協会		
人材確保説明会	5月14日	グリーンタワー幕張
千葉協会総会	5月16日	グリーンタワー幕張
強度行動障害支援者養成研修 基礎研修(全体)	6月23日・8月25日・12月1日	京葉銀行文化プラザ
スポーツの集い	10月11日	天台
さわやか芸能発表会	12月7日	
自立支援セミナー2018	2月3日	千葉市民会館
千葉ゆうあいピック 駅伝大会	2月4日	天台

関東・日本関係		
職員野球関東大会	5月27日	成田市
全国施設長会議	7月4日・5日	東京
関東大会	7月13日・14日	幕張
全国大会	9月27日～29日	愛知県名古屋市
全国リスクマネージャー養成研修	11月29日～12月1日	

支援スタッフ  
から見た!

# わが施設の自慢・アピールポイント②

平成20年度から22回にわたり63の“チチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は3つの“チチ自慢”です!

## 印旛・山武ブロック いんば学舎・草深

### 豊かな自然の中で「養鶏」「畑作業」「陶器作り」

いんば学舎・草深では、1人1人が充実した一日を送れるように、豊かな自然の中で養鶏、畑作業、陶器作りなどを利用者さんたちと共にっています。

学舎の鶏は、毎日欠かさず「自家配合飼料」「新鮮な地下水」「手作りの有機野菜」を与えながら餌の入った重たいバケツや水のタンクを運んだり、一つ一つの卵を割らないように集め丁寧に汚れを落とす様に心がけ1人1人が出来る事を頑張り合いながら、健康な鶏に育てています。

野菜作りでは、季節の野菜を無農薬にこだわり、あえて多くの手を掛けて育てています。

陶芸作りでは、学舎の山から掘り出した土を使い作成しています。食卓で普段使いしていただけるように落ち着いた色

味の粉引で仕上げています。

作った野菜や陶器は学舎に隣接しているアトリエで展示、販売しています。他にもイオンさんからお声を掛けてもらい年に5回、いんば学舎展を開催させて頂いて利用者さんと共に販売させて頂いております。

これからも共生社会の実現に向けて、社会参加の機会の確保や地域を利用した取り組みに努めて参ります。

生活支援員 橋本 郁哉



## 長生・いすみブロック ピア宮敷

### オリジナル商品(きくらげ・ごま油・うどん)が自慢です!

社会福祉法人土穂会・ピア宮敷では昨年10月より「第1工房」において就労継続支援B型事業(定員10名)を開始し、従前の生活介護事業(定員20名)と合わせて総定員30名の多機能型事業所となりました。

今まで日中活動では働く機会を設けてきましたが、就労継続支援B型の事業の実施により、利用者さんの真剣で生き生きとした姿勢に就労意欲が向上している手応えを感じています。

現在、きくらげの収穫・乾燥加工、行楽用スプーン・フォークの梱包、ごま油の加工、うどんの製麺・店舗における接客等を行なっています。



販売促進を積極的に行なうことで売り上げを伸ばし、将来的には高い工賃をお支払できるようにしていきたいと思います。また、工賃を使って利用者さんの希望を叶えるお手伝いもできればと考えております。

支援員 吉田 和之

## 市原・君津・安房ブロック 桜の里

### 小規模事業所ならではのきめ細やかなサービスが自慢です!

生活介護事業所桜の里は、安房広域福祉会の通所施設(定員は20名)として平成24年8月に開所しました。桜の里では、一人一人の個性や特性、興味に応じた個別支援と、音楽という共通の楽しみを通じて、利用者さん同士が共有の時間を過ごす集団支援を取り入れ日々活動を行っています。また、学校卒業とともに運動する機会が減るため、健康維持を目的として、毎日運動する時間を設けています。その他、季節に沿った創作物を作製したり、ちょっとした野菜を作つて食べたりと活動はバラエティに富んでいます。

桜の里は、日頃より地域住民の方々の温かいご支援とご協力をいただいております。施設が所在する館山市はいちご狩



りで有名ですが、昨年はご近所のいちご農家さんのご厚意により、いちご狩りにご招待いただきました。海あり山あり温暖な気候に恵まれ、また心温かい住民の方々がいる、そんな土地で私たちは毎日過ごしています。

いつでも利用者さんやご家族に寄り添い、誰もが居心地の良い施設であるよう日々心掛けています。

所長 江部 純子

# 千葉知協トピックス

## 第25回 さわやか芸能発表会

スポーツ文化委員会 藤崎 明



最優秀賞・しもふさ工房～舞台発表



最優秀賞・青松学園  
～展示発表

平成28年12月6日（火）、千葉県文化会館（千葉市中央区）にてさわやか芸能発表会を開催しました。今年で第25回を数え、記念大会として千葉県文化会館も主催に入つていただき、また、ゲスト出演では千葉県警察音楽隊の演奏があり、華やかな大会となりました。

舞台発表では、例年より

1団体多い13団体が最優秀賞を争いました。出演団体はみちる園、わかば園、しもふさ工房、かしの木園、ひかり学園、香取学園瑞穂寮、大久保学園サクシード、第二わかば園、浦安市障害者福祉センターきらり、たかね園の皆様でした。今年もハイレベルな競演となり、厳正な審査の結果、合唱を発表したしもふさ工房が見事、最優秀賞を獲得しました。

一方、展示部門では10団体が出品しました。年々レベルは上がっているのは展示部門も同様で、審査部

査員の皆様もかなり悩ませたようでした。その中で、さとり織りを展示発表した青松学園が最優秀賞を獲得しました。今年は千葉県障害福祉課の皆様がお互いに時間の都合をつけながら観覧いただきました。ありがとうございました。

## 第20回 千葉ゆりおじレック駅伝大会



平成29年1月15日（日）、  
第20回千葉ゆりおじレック駅伝

平成29年1月15日（日）、  
第20回千葉ゆりおじレック駅伝（千葉県知的障害者陸上競技協会等主催、本協会等後援）が千葉県総合スポーツセンター

ACでした。選手層の厚い流山高等学園が逆転で先頭に立つと、その後は安定した戦いぶりを見せ、2年ぶりに優勝を果たしました。第2位はダイバーシティ。第3位は富里福葉苑でした。その他の主な上位の成績は次の通り。

女子クオーターリー優勝・安房特別支援学校、準優勝・富里福葉苑。男子クオーターリー優勝・静岡ハンディ（静岡県）、準優勝・市川大野高等学校A、第3位・富里特別支援学校A。男子エイスマスリード優勝・安房特別支援学校N、準優勝・豊四季光風園、第3位・我孫子特別支援学校清新分校。壮年男子エイスマスリード優勝・富里特別支援学校D、準優勝・豊四季光風園、第3位・市川大野高等学校A。女子エイスマスリード優勝・富里特別支援学校D、準優勝・ひかりAC、第3位・十倉厚生園。同女子リレーレース優勝・富里福葉苑、準優勝・ひかりAC。

成績の詳細は千葉県知的障害者陸上競技協会のHPに掲載されています。  
<http://www.makinomikai.or.jp/IDchiba2016.27.the19thEkidenResult.pdf>

## 事務局便り

事務局長 千田 清

セミナー2017の開催にあたり、多くのご参加を頂戴し御礼申し上げます。年度末を迎え、どうぞ皆様お身体を自愛されますよう。法人改革をはじめとした様々な福祉への期待と求められるもの。変わらないものは、人との向き合い方・・・変わつてはいけないもの。

## 編集後記

くすのき苑 大橋 宣彦

今年度も皆様の応援のおかげで無事に役目を果たす事ができました。ありがとうございました。来年度を皆様と笑顔で迎えたいです。